

令和7年度（2025年度）第2回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和7年（2025年）8月7日（木）午後2時～午後3時45分
- 2 場 所 501会議室
- 3 出席者 新井 宝造、近藤 高史、吉崎 直己、平井 正吉、山本 隆明、吉村 暁夫、
白羽 圭子、大東 憲二、龍田 昭一、毛利 まり子、吉鶴 弥生、千頭 聡
アドバイザー（委員11名、アドバイザー1名、敬称略）
生活環境課環境対策グループ統括主任、生活環境課生活環境グループ統括主任、
生活環境課主任（2名）、リサイクル推進課統括主任、リサイクル推進課主任
（事務局6名）
- 4 欠席者 榊原 弘之（委員1名）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) 委員長挨拶

山本委員長より挨拶を行った。

(2) 説明事項

前回会議の議事録について、事務局から資料を用いて説明を行った。委員からの意見等はなし。

(3) 協議事項

ア 年次報告書案（案）

事務局から資料を用いて説明を行い、各部会で資料2-2計画期間（8年間）の全体的な評価におけるめざすふるさとの姿及び資料2-3行動計画ごとの取り組み内容の評価の委員会評価について、★5段階評価で検討した。その後、吉崎部会長が、生活環境保全・自然共生部会の協議内容を、平井委員が気候変動対策・循環型社会部会の協議結果を報告した。

（吉崎部会長）：資料2-2は、○△×の3段階評価から★5段階評価に変更することで分かりやすくなった。★の数を評価するうえで、なぜ★の数をその評価にしたのかという具体的な事例や理由が付記されているとより分かりやすい。資料2-3は、★を評価するうえで、資料2-2の評価との整合性を説明できるようにする必要がある。個別の評価としては、計画に対してどれだけ活動できたのか、どのような活動を行ったのかという視点で評価する必要がある、新しく取り組んだ事業があ

れば評価を上げるようにしてはどうか。また、課題となっておらず対策する必要がないような分野については、新たな事業を実施していないから評価を下げるのではなく、課題が発生しないように取り組んできた過程において実施した事業を評価し、現状の評価を引き上げることにについて事務局で検討していただきたい。このことから、★の個数は事務局で調整いただきたいと考えるが、「環境保全活動の担い手づくり」は★1つではなく★2つが妥当であるとする。

【生活環境保全・自然共生部会の評価案】

環境の柱	行動計画	委員会評価 (部会長意見に基づき「－」は事務局で調整)
環境教育	環境教育・学習の推進	－
	環境保全活動の担い手づくり	★★
環境対策	大気の調査・監視	－
	公害の防止対策	－
	悪臭対策	－
	騒音対策	－
	水質の調査・分析	－
	水質環境の改善	－
環境保全・再生・創造	美化活動の推進	－
	緑地の保全・持続可能な利用	－
	水環境・水循環の保全・持続可能な利用	－
	生物多様性の保全・持続可能な利用	－

(平井委員)：資料2－3の環境教育は、エコスクールの実施講座数及び参加人数の増加や令和6年度から開始したLINEによる環境情報の発信は評価できるものの、エコスクールのインスタグラムのフォロワー数が少ないことなど、PR方法に課題がある。省エネルギーの推進については、他市ではあまり実施していない省エネ家電製品購入促進補助金や事業者等省エネルギー設備導入等補助金を実施していることを評価した。公共施設等への再生可能エネルギーの活用は、市が率先して再

生可能エネルギーの活用に努めると記載しているものの、市役所自体で太陽光発電をしていないことから評価を下げた。低炭素型まちづくりは、令和6年度から循環バスのダイヤ・ルート再編やチョイソコとかいの実証実験を進めているものの、歩行者・自転車による移動の推進について、歩行者道路の整備が中々進んでいないことから評価を下げた。リデュースの推進は、3010運動を事業者や飲食店舗がしっかり行っており、各所に周知できているものの、令和7年度から生ごみ処理機等購入補助金を行っていることから伸びしろを評価した。リユースの推進及びリサイクルの推進は、市役所中心からメルカリやジモティー等の民間への移行やリサイクルセンター内常設場での資源分別や公共施設での拠点回収等により、ごみ減量に努めていることを評価した。ごみの適正排出・処分は、令和6年度からLINEを活用して正しいごみの出し方を周知したり、事業者向けの事業系ごみガイドブックを新たに発行したことや、令和6年度から西知多クリーンセンターが新たに稼働していることから評価した。

【気候変動対策・循環型社会部会の評価案】

環境の柱	行動計画	委員会評価
環境教育	環境教育・学習の推進	★★★★★
	環境保全活動の担い手づくり	★
環境保全・再生・創造	省エネルギーの推進	★★★★★
	再生可能エネルギーの活用	★★★★★
	省エネルギーの推進	★★★★
	低炭素型まちづくり	★★★★
循環型社会	リデュースの推進	★★★★
	リユースの推進	★★★★
	リサイクルの推進	★★★★★
	ごみの適正排出・処分	★★★★★

イ 次年度の年次報告書の構成等

事務局から資料を用いて説明を行った。委員からの意見等はなし。

(4) 千頭アドバイザー意見

令和8年度（2026年度）の年次報告書の様式では課題が見えづらい。課題を記載することで次年度以降にどのような課題があるのか把握できることから、取組内容の課題記載の可否を検討してはどうか。また、第3次環境基本計画の計画期間（10年間）

が終了した際に、計画期間10年間における事業内容の見直しの経緯が見えるような年次報告書の様式になると良いと考える。